

[果樹]

5.7 かんきつ（温州みかん、晩生かんきつ）

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術(天敵微生物)	ゴマダラカミキリなど	1回
	○被覆栽培技術	黒点病 かいよう病 そうか病	かんきつ全般 4回 晩生かんきつ 5回 温州みかん 3回
	○マルチ栽培技術 (フィルム、わら、被覆植物)	雑草	1～2回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

58 かき

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、マルチ栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。</li> <li>○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。</li> </ul>		2 t /10a
化学肥料低減技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肥効調節型肥料を施用する。</li> <li>○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。</li> </ul>		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術(BT剤)	カキノハムシカ <sup>※</sup> など	2回
	○被覆栽培技術(防虫網)	カメムシ類など	3回
	○マルチ栽培技術(被覆植物)	雑草	1回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

59 なし

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・フェロモン剤、被覆栽培、機械除草、黄色灯により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術(B T 剤)	ハマキムシ類	2回
	○フェロモン剤利用技術	ハマキムシ類など	2回
	○被覆栽培技術(袋掛け)	黒斑病	3回
		黒星病	2回
		カメムシ類、夜蛾類	3回
	○被覆栽培技術(雨よけ)	黒斑病	5回
黒星病		4回	
赤星病		3回	
輪紋病		2回	
○被覆栽培技術(防虫網)	カメムシ類など	3回	
○機械除草技術	雑草	2回	
その他の留意事項			

60 ぶどう

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。</li> <li>○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。</li> </ul>		1 t /10a
化学肥料低減技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>○肥効調節型肥料を施用する。</li> <li>○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。</li> </ul>		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○フェロモン剤利用技術（ハウス）	ハスモンヨトウなど	2回
	○被覆栽培技術（袋掛け）	晩腐病 黒とう病 スリップス	1回 1回 2回
	○被覆栽培技術（雨よけ）	黒とう病 枝膨れ病	5回 4回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

6 1 もも

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・フェロモン剤、被覆栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術（BT剤）	ハマキムシ類	2回
	○フェロモン剤利用技術	ナシヒメシクイなど ハマキムシ類など	2回 1回
	○被覆栽培技術（袋掛け）	黒星病、灰星病など カメムシ類など	2回 3回
	○被覆栽培技術（雨よけ）	黒星病、灰星病など	3回
	○被覆栽培技術（防虫網）	カメムシ類など	3回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

## 6.2 すもも

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○フェロモン剤利用技術	ナシヒメジキ ハマキムシ類など	2回
	○被覆栽培技術（雨よけ）	黒斑病、灰星病	3回
	○被覆栽培技術（防虫網）	カメムシ類、夜蛾類	3回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

## 6.3 うめ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・フェロモン剤、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		1.5 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○フェロモン剤利用技術	コスシハダ	2回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

#### 6.4 キウイフルーツ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、機械除草、環状はく皮により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○被覆栽培技術（袋掛け）	果実軟腐病 カラムシ類	2回 3回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

#### 6.5 いちじく

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・生物農薬、被覆栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術（天敵微生物）	ゴマダラカミキリなど	2回
	○被覆栽培技術（雨よけ）	そうか病 疫病	2回 3回
	○被覆栽培技術（袋掛け）	アザミウマ	3回
	○機械除草技術	雑草	2回
	○光利用技術	スリップス	1回
その他の留意事項			

## 6.6 びわ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・被覆栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○被覆栽培技術（雨よけ）	がんしゅ病 ごま色斑点病	3回 2回
	○被覆栽培（袋掛け）	灰斑病 カメムシなど	3回 3回
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			

## 6.7 くり

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○機械除草技術	雑草	2回
その他の留意事項			



68 リンゴ

- ・地域の土壌条件に応じて、たい肥等による土づくりを行う。
- ・地域の土壌条件に応じて、肥効調節型肥料、有機質肥料を利用して化学肥料の使用を低減する。
- ・フェロモン剤、被覆栽培、機械除草により化学農薬の使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容		使用の目安
たい肥等施用技術	○土壌診断に基づいた牛ふんたい肥、バークたい肥等の施用を基本とする。 ○緑肥作物などによる草生栽培を導入し、土壌の浸食防止とともに、地力の維持強化を行う。		2 t /10a
化学肥料低減技術	○肥効調節型肥料を施用する。 ○有機質肥料を基肥もしくは追肥または両方で施用する。		窒素成分削減率 20%
化学農薬低減技術	導入する個別技術	対象病虫害等	農薬散布削減回数
	○生物農薬利用技術（BT剤）	ハマキムシ類	2回
	○フェロモン剤利用技術	キンモンホリガなど ハマキムシ類など	2回
			2回
	○被覆栽培技術（袋掛け）	斑点落葉病 黒星病など	2回
			2回
	○被覆栽培技術（雨よけ）	黒星病など	2回
○被覆栽培技術（防虫網）	カメムシ類など	3回	
○機械除草技術	雑草	2回	
その他の留意事項			